

## 2024年度 第7回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

**日 時** 2024年11月25日(月)10:00~11:15

**会 場** 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

**出席委員** 田中理事長、星副理事長、磯田理事、伊藤理事、岡島理事、戸所理事、佐野監事、中野監事

**出席教職員** 林副学長兼学部長、田口学長補佐兼専門職連携教育研修センター長、長岡副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、篠原企画・情報担当部長、濱口財務担当部長  
【オンライン】  
金村研究科長、延原情報センター長、東高等教育開発センター長、常盤学生支援センター長、濱口研究開発センター長、北畠地域連携センター長、田中共通教育科長、國澤看護学科長、山崎理学療法学科長、久保田作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、廣渡健康開発学科長、山口高等教育開発センター副センター長、小林研究開発センター副センター長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、中野研究・地域連携担当部長

**議事概要** ○:学外理事、監事 ●:学内理事、事務局

### 【議事録確認】

田中理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

星学長から9月理事会の議事録の修正が提示され、確認された。

### 【議決事項】

#### 第15号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長から説明した。案のとおり、異議なく議決された。

## 第16号議案 令和7年度予算編成方針について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。案のとおり、異議なく議決された。

### 主な発言は以下のとおり

○収入の運営費交付金の額はすでに確定しているのか。

●現在埼玉県でも予算編成を行っているため、要求はしているが確定はしていない。

○今後のスケジュール感を教えてほしい。

●年内には各担当からの予算調書を取りまとめ、年明けから精査を行う。2月以降に法人重要会議にて審議いただく予定である。

○3億2,500万円が不足するため、目的積立金を活用及び各担当からの要求を精査してくという理解でよいか。

●そのとおりである。

○予算編成の考え方として、第3期中期計画の着実な推進を目的としてそのための予算を確保していくという考え方になるのか。もしくは、第3期中期計画は令和4年度から令和9年度までの計画で、令和7年度は真ん中のタイミングであるため、第3期中期計画の見直しを考えているのか。

●予算は中期計画の着実な推進を目的として策定している。中期計画の見直しは現状考えていない。

○収支差額について、今後少子化が進行し、例えば入学検定料についても減っていく可能性があると思う。収入を増やすための取組みとして、外部資金や寄附金の獲得に尽力されていることは承知しているが、他の公立大学で何か面白い取組みをしているなどの情報は持っているか。

●ご指摘の通り、外部資金の確保は今後更に検討が必要と考えている。他大学の情報については、現在把握がない。

○現在のような急激な物価高、またそれ以外にも、オイルショック等急激に経済が急変する事態が起こる可能性があると思う。そういった急変時における県との交渉の取り決めなどはあるか。

- 昨今の物価高に対しては、主に電気代等において、その影響を加味した金額を県に要求している。これについては12月か1月頃に県から最終的な結論が伝えられる予定である。また、運営費交付金の覚書において、特殊な事情がある場合は協議をすることと、なっているため、そういった事案が発生した場合は協議する余地はある。

### 【協議事項】

- (1)令和6年度業務実績報告書(中間評価)について  
資料に基づき、長岡副局長から報告した。

#### 主な発言は以下のとおり

- 業務実績報告と法人評価委員会からの評価と、大学の認証評価機関からの評価はどのような関係なのか。
- 業務実績報告は、大学で策定した年度計画に対する自己評価を行うものである。法人評価委員会からの評価は、この業務実績報告書から大学の取組みについて評価いただくもので、この2つは連動した関係にある。大学の認証評価機関からの評価はまた違い、大学の内部統制の仕組み等について評価いただくものである。
- 大学の認証評価機関からの評価が、違う性質のものであることはわかった。今年度の法人評価委員会からの評価を見る限り、成果・効果が物足りないと言われているような印象を受ける。来年度の計画についてはいつ頃作成するのか、また、内容について大きな見直しは行うのか。
- 令和7年度の計画については、現在作成作業に入ったところである。来年の2月以降に法人重要会議にてご説明できると思う。また、法人評価委員会からの評価に対する対応については、数値や効果を盛り込める項目については、盛り込むよう各担当や各センターに依頼しているところである。  
また、本学の年度計画は基本的にアウトプットを定める仕様となっており、アウトカムについては業務実績評価指標で推移を確認している。教育・研究については短期の取組みで成果が上がるものではなく、中長期的な目線が必要と考えている。
- 業務実績報告書における評価の客観性はどのように担保されているのか。
- 定量的な指標がある項目についてはその指標を基準としている。その他の項目については、計画を予定どおり実施できているのかを

基本的な基準としている。

## 【報告事項】

- (1)業務実績評価指標の推移について  
資料に基づき、伊藤副学長から報告した。

### 主な発言は以下のとおり

○これは感想だが、本学は実習が多いため、助教の人数が必要という話があったと思うが、その教員構成が科研費の採択や社会貢献活動等の指標に関係しているということがわかった。両方のバランスを取ることが難しいということがわかった。

○休学率の部分で進路の再検討が原因として増えている、という話があった。これは、メンタルという問題ではなく、金銭的な問題なのか、もしくは教育が進む中で自分には合わないと感じているということなのか。

●メンタルによる休学は横ばいで、経済的理由についても、授業料減免の件数を見ていただくと分かる通り、ほぼ横ばいで落ち着いている。進路の再検討について、本学は保健医療福祉系の大学であるが、入学してみると向いていなかったと感じる学生がいたり、入学した学科とは違う学科へ興味が出たりする場合などがある。保健医療福祉学部は学部の中でも学科ごとにカリキュラムが大きく違うこともあり、転学も容易ではないことから、時間をかけて考えるために休学されている人もいるのだと思う。

○寄附金額を見ると、1件あたりの金額がかなり大きいように思う。通常だと1万円程度ではないか。

●退職教員からの寄附が大きかった。

- (2)第26回清透祭の実施について  
資料に基づき、常盤学生支援センター長から報告した。

(3)次期学長の選考について

資料に基づき、高柳調整幹から報告した。

主な発言は以下のとおり

○学長の任期及び年齢制限の有無について教えてほしい。

●学長の任期は4年、再任の場合は2年である。年齢制限はなく、本学の教員でなければいけないといった制限もない。

○立候補は可能なのか。学長選考の仕組みがわからないので教えてほしい。

●定款に基づく学長選考会議において選考を行うことになっている。選考の方法は別途規則で定めており、学長選考会議の構成員6名に対し、学長候補者の推薦を求める推薦制となっている。

○今回推薦があったのは1名だけなのか。

●1名だけである。

○6名の選考委員がいるのに、推薦が1名だけというのは気になる点である。大学も歴史を重ねているので、検討すべきことがあれば議論していくことも必要ではないか。

●大学のガバナンスにとって学長選考は大切な事である。大所高所からご意見をいただきながら、必要があれば検討していきたい。

以上